

民報 ゆうばり

女性9条の会「憲法学習会」開催

戦争放棄と雇用劣化、貧困、性差別をつなげた護憲運動を！

9条(恒久平和)は25条(健康で文化的な生活)のためにある

和光大学教授・ジャーナリスト 竹信恵子さん 講演

8月27日、清水沢公民館において、ゆうばり女性9条の会が主催する「憲法学習会」が開催され、和光大学教授でジャーナリストの竹信恵子さんが講演しました。

夕張の現状

25条の生存権

世話人代表の downward 恵子さんが「戦後69年の今年、広島原爆死没者慰霊碑に『安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませんから』と刻まれたことばをあらためて考え、さらに安倍政権の暴挙による『戦争する国づくり』が憲法9条を破壊するばかりではなく、25条も含めた憲法全体を破壊し、『健康で文化的な生活』のすべてを葬り去る結果を招く」とその危機的状況を強調しました。



憲法は権力を規制するもの

憲法の始まりについて、17世紀の『英国のマグナカルタ』・18世紀のフランスの『人権宣言』を引き合いに、当時の王制が横暴極まる中で、それを押さえるための方策であったことを述べ、日本国憲法も(戦争へと暴走した)政府を規制するものとして制定されたこと、「憲法は国民が従うものではなく、国の権力を規制するもの」と、改憲派の主張がいかに不当なものかを分かりやすく解説しました。

25条(生存権)の重要性

そのうえで、生存権(健康で文化的な生活)が根幹であり、そのためには平和(9条)でなければならず、誰もが平等に選挙権を持ち(15条)、男女平等(24条)

戦争は暮らしのすべてを犠牲にする

日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、その後満州事変、日中戦争、太平洋戦争へ。戦争遂行のために、あらゆるものを犠牲にする体制。教育を受ける権利も男女平等も勤労の権利もなし。女性が家族福祉の担い手。

雇用劣化と夕張市財政破綻を結ぶもの

かつては、男性世帯主と東京に資金を集め、ここから税を地方に分配することで平準化してきた。1990年代後半から、終身雇用と家族を支える賃金が放棄され、派遣労働が原則全面解禁された。2002年、地方交付税の削減と『三位一体の改革』(国庫補助の削減)が重要視され、その重要性を力説しました。

憲法を本当に守る生存権の立て直しを

最後に、「安倍政権の支持率が若者と女性で下がってきたことを取り上げ、特定秘密保護法、集団的自衛権、原発再稼働とともに、実質賃金の目減りなど、生存権崩壊の強い不安が広がっている。戦争放棄と雇用劣化、貧困、性差別をつなげた護憲の活動を」としめくくりました。

参加者の感想から

○憲法の九条を軸に生存権や教育を受ける権利、勤労の権利などに関連付けたお話しに感銘を受けました。○もう一度、今日の話に出た憲法の条文を読みなおしたい。○憲法成立までの歴史的な背景や経過を交えて話され、戦後の日本復興を支えてきたことがよくわかりました。まだ女性を家から追いやった事実、製造業からの産業転換にも失敗した政府の責任は重大。○新聞記者の経験からお話はわかりやすくて、ちょうどよい時間の講演でした。

無名碑合同法要 行なわれる

建設一般労組
夕張支部

8 月 28 日、全日本建設交通一般労働組合事務所において、第五〇回目の合同法要が執り行われまし

た。この合同法要は 1968 年に仲間を偲んで石碑を建て、毎年この時期におこなわれて

今年も新たに 1 名の方を合祀し、合計 342 名になりました。この中には市役所からの依頼で、身寄りのない方々の遺骨を預かり、納骨堂におさめている数も多数含まれていると



坑夫と女工像

今、NHKの朝ドラで「花子とアン」が評判です。ここに登場するのは、政略結婚させられた天皇の従妹にあたる「白蓮」(葉山連子)と「炭鉱王・伝右衛門」(嘉納傳助)です。この伊藤伝右衛門は、九州筑豊で炭鉱を経営して財をなした人物と言われています。

九州筑豊炭田。これまた明治政府の官営によって開かれ、後に民間に払い下げられます。三池炭鉱は富岡製糸場と同じく三井に、高島炭鉱は三菱に払い下げられました。少し遅れて空知炭田、夕張炭山も明治政府の手厚い保護のもとに、北海道炭鉄道会社として拡大していきます。

「坑夫と織女」の像

東京の丸の内東京駅近くに 1920 年(大正 9 年) 11 月、日本工業倶楽部会館が完成しました。その会館の正面玄関の屋上に「坑夫と織女」の像が立っています。

日本工業倶楽部は、ときの財界の活動の場であり、戦後は経団連や日経連の設立・育成に力を発揮する経済団体となっています。つまり財界の総本山となっているのです。

その会館の屋上から見下ろすハンマーを持つ坑夫と糸車を持つ女工の半裸像は、明治政府や財界の思惑を超え、日本近代化を築いた「働く者」を象徴しているのではないのでしょうか。

製糸所では、十歳に満たない女子や名もない女子が命がけて働いてきました。こうした製糸工場では、各所で「人間としてのめざめ」が生まれていきます。

1886 年(明治 19 年)山梨県甲府の兩宮製糸工場で 100 名におよぶ工女たちが、お寺に籠もり「同盟罷工(ストライキ)」を決定しています。日本の労働運動史初めてのストライキです。

炭鉱のたたかいかもまたー。



「はたやま和也かけある記」

日本共産党

北海道委員会書記長

はたやま 和也

「仲間よ、闘うことを忘れるな」

お盆明けに、レッド・ページ被害への救済勧告が札幌弁護士会から出されました。国鉄で働いていた苗川清一郎さんの申し立てを受けたもので、三月の舛甚秀男さん・加藤哲夫さんに続き三人目となりました。「アカ」の名で職場を追い出され、六十四年にわたる名誉回復のた

たかいです。政府は正面から受け止めてほしい。「レッド・ページ被害者の名誉回復と補償を求める北海道懇話会」の総会に参加し、苦小牧・王子製紙労働組合でのレッド・ページ反対の歴史について講演も聞きまし

た。犠牲となった仲間を職場に戻せと組合が一致して要求し、社宅の仕事ですが従業員並の待遇を約束させます。この結果に危機感を抱いた経済界が介入を強め、組合は百四十五日にわたる無期限ストに突入しました。いわゆる「王子争議」です。

資料を整理された冊子をいただきました。争議責任を理由に解雇された労組委員長が、レッド・ページ復讐闘争をふりかえって書いています。「闘いの動機はイデオロギイ的な色彩より、旧職場の仲間の窮状を見かねた「素朴な人情」からで、それが百四十五日の闘いの大きな要因となっ